



講義録レポート

講義録コード

00-4-12-2-01-01

講 座	簿記検定講座	科目①	上級工原
目標年	2024年6月合格目標	科目②	上級講義
コース	1級上級コース	回 数	1 回
		通算回数	1 回

収録日	2023年 12月 16日		
講師名	清水 成彰 講師	内 板書 枚数	0 枚
		補助レジュメ 枚数	25 枚
		その他 (下 記)	6 枚

講義構成	講義① 62分 → 休憩 10分 → 講義② 50分 → 休憩 5分 → 講義③ 47分		
実施テスト	有 ・ (無)		
対応テスト	<ミニテスト>	() 第	回
	<答練・演習>	() 第	回
使用教材	●合格テキスト	P. 2 ~ P. 57	
	●合格トレーニング	P. ~ P.	
	●その他	[] P.	
配付 教材・資料	●教材(テキスト・問題集)	()	講義録添付 (有・無)
	●補助レジュメ	() 25 枚	講義録添付 (有・無)
	●その他	(進度表・正誤表・WEBフォロー) 6 枚	講義録添付 (有・無)
備考	～DVD・Web受講生各位～ 黒板を写すカメラのスイッチング(切替)は講師が行っている都合上、映像中に一部講師が画面に映らない場合もございますが、故障ではありません。音声及び本講義録をご参照の上、ご受講ください。		

この講義録の著作権は、TAC株式会社または権利者に帰属しており、当社に無断で複製、改変、転載、転用、インターネット上にアップロードする等の著作権を侵害する行為は法律によって禁止されております。

TAC簿記検定講座

この教材の著作権はTAC株式会社または権利者に帰属しています。

当社が特に認めた場合または著作権法上の例外を除き、当社に無断で複製、転載等をおこなうことは禁じられています。

TAC  **セミナー**

日商1級 上級コース 工業簿記・原価計算編

1. 受験目標

第167回日商簿記検定実施日… 2024年6月9日(日)

2. 上級コースの受講対象者

日商簿記1級の基礎知識を習得済みの方(設例程度はスラスラ解ける方)

3. 上級コースのカリキュラム(工業簿記・原価計算編)



【上級講義】(14回)

日商1級の合格に不可欠な知識を講義にて再確認します。同時に問題演習も行い、総合問題の解き方や問題文章の読み方などを学習します。

【上級演習】(6回)

総合問題の演習を早期から行うことで、本試験形式に慣れるとともに、問題資料の読み取り方や解法の構築のしかたを学び、基礎力を固め、実践力・応用力を養成します。

【直前講義演習】(1回)

基本の再確認を行い、的中答練に向けてペースを固める役割を担う講義・演習です。

【的中答練・全国公開模試】(計6回)

TACオリジナルの本試験予想問題の演習を通じ、実践的な解答テクニックの養成と弱点の補強を行います。

なお、的中答練および全国公開模試については、デジタル採点の上、WEB SCHOOLのマイページ上にてのご返却となりますので御了承下さい。

4. 使用教材について

(1) INPUT期の主要教材

- ① 上級講義… 合格テキストⅠ～Ⅲ(TAC出版) Ver.8.0

※ 各回に持参して頂くテキストの分冊は、学習進度表にて事前チェックをお願いします。

- ② 上級演習… 答練(総合問題。各回にて配布。)

(2) 補助教材

- ① 過去問題集

『合格するための過去問題集』(税別2,600円)

- ② 個別問題集

『合格トレーニング工原(Ⅰ～Ⅲ) Ver8.0』(TAC出版)

5. 上級コースについて

(1) 適正なコース選択

レギュラーコース：1級の初学者対象。1級を基礎から学習（設例を用いて論点を学習）。

（講義全33回）

上級コース：1級の基礎はマスターした方（設例程度はスラスラ解ける方）が対象。

（講義全14回） レギュラーコースでは取り扱わなかった論点や、問題の読み取り方・解き方を学習。

(2) 事前の予習が必須

その日の講義内容に属する設例は、**各自、事前に解き、基礎を思い出してから講義に臨むようにしてください。**

(3) レジュメは、各自で調達

欠席された回のレジュメは、ご自身でご用意ください。WEBスクールよりプリントアウトできます。

6. フォロー制度（詳細は「受講ガイド」参照）

(1) 通学講座の場合

① 欠席フォロー

ア) クラス振替出席フォロー（他クラス・他校舎へ自由に振替可）

イ) ビデオブース振替フォロー（校舎のビデオブースでの視聴。要予約。有料・税込み500円/1講義）

ウ) Webフォロー（有料）… **通学本科生は標準装備**

エ) 音声DLフォロー（有料）

~~オ) クラス重複出席フォロー（同一ターム内の同じ回の生講義を、2回まで受講可）~~

(2) 通信講座の場合

① スクーリング（本科生の方のみご利用できます）

通信メディアをご受講の方は、直前期日程を教室講座で無料でご受講いただくことができます。各地域の実施日程をご参照いただき、臨場感のある環境で答練に臨んでいただくこともご検討ください。

② 質問フォロー

ア) 質問電話（下記7.）

イ) 質問メール（Web School「学習フォロー」より送信ください。なお、利用回数に制限がございます。）

ウ) 質問カード（受講ガイド巻末よりご使用ください。なお、利用回数に制限がございます。）

新設！ 1級講義パックWebフォロー（おすすめ！）

対象：1級上級本科生の方

内容：1級レギュラーコースの講義（最新版）をWEB配信

目的：① 上級コースについていけるか不安な方

② 苦手な論点、忘れていた論点を基礎から学び直したい方 } をフォロー

価格：商会のみまたは工原のみ → 25,000円、商会工原すべて → 40,000円

7. 質問電話番号（通学メディア・通信メディアいずれもご利用可能です）

簿記検定講座講師室（直通） 03（5276）8916

月曜日、水曜日、金曜日に受付（14時～17時、18時～20時）

日商1級上級コース 工業簿記・原価計算

第167回対策 上級講義

～ 第 1 回 ～

1. 合格するために

(1) 基本が大切！

基本がしっかり固まっていると、ひねられても応用が利くようになります。単に計算出来るだけではダメ！
折に触れてテキストに戻り、計算内容の意味や、その理論的背景を理解するようにしましょう。

(2) 問題演習（アウトプット）をこなしましょう！

自らが蓄えた知識を答案用紙にアウトプットする形式の試験である以上、アウトプット・トレーニング（問題演習）は不可欠です。貪欲に問題をこなしましょう。必要な教材をすべて潰すくらいの意欲が欲しいです！
また、出来なかった問題や、手こずった問題は何度も反復しましょう！

(3) アウトプット・トレーニングは、見直し作業がカギ！

なかなか合格出来ず受験勉強が長期にわたる方は、問題を解いた後、解答解説を一通り見て、計算内容を確認し、それを覚える傾向が強いですが、これでは、その計算の意味や必要性が理解出来ず応用が利かなくなってしまうです。そこで、問題演習に際し間違えたところについて、解説を見るのではなく（なるべく解答は見ずに）、自分なりの考え方に則ってもう一度解答を算出してみましょう。その際、テキストは見て構いません。正解にたどり着くまで考えることが重要です。そして正解出来たら、① ミスした原因、わからなかった原因を究明する、② テキストに戻ってその関連知識を補強する、③ 同じ過ちを繰り返さないためにはどうしたらよいか、その対策を考え工夫する、ことが大切です。これら3つのポイントを確実にこなすことで、アウトプット・トレーニングはより大きな効果を発揮します！

(4) 学習計画を立てましょう！

学習計画を立てず、テキストの第1分冊から第2分冊、その後第3分冊と復習してゆく方が多いです。たしかに、順序よく学習すること自体は悪いことではありません。しかし、受験のたびに、本試験の直前ギリギリになって、ようやく苦手な第3分冊の復習に取りかかるために、第3分冊だけ「ヤツツケ」的な勉強になっている、という方が目立ちます。これは、学習計画を立てず、やみくもに学習している証拠であり、受験期間が長期化してしまう原因ともいえます。これでは、ほとんど何も身につかないまま本試験を迎えるハメになります。

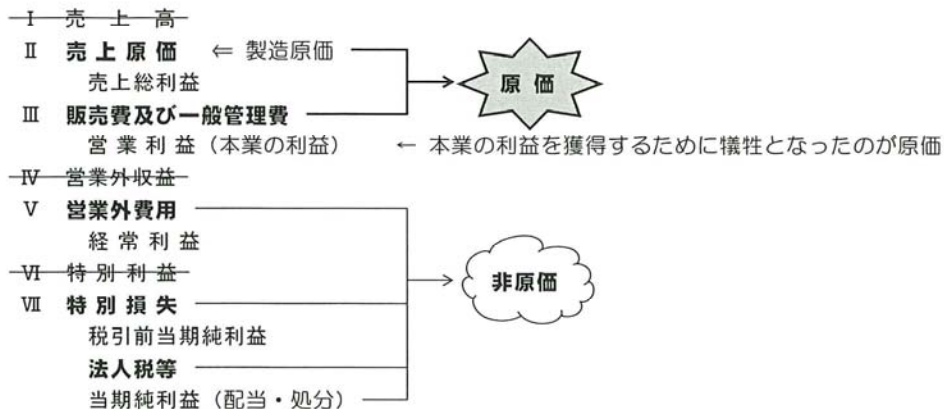
計画を立て、苦手論点こそ手厚く勉強できるようにしましょう！なお、学習が計画と寸分違わず実行できることの方が稀なので、計画はザックリとしたものでかまいませんが、実態と乖離したときにはその都度、学習計画を見つめ直す必要があります。

2. 第1回上級講義の内容

〔原価記録と財務諸表、材料費会計〕 テキストⅠ（Ver. 8.0）：p 2～p 57

原価計算の基礎知識

1. 損益計算書のひな形から覚える、原価・非原価の分類



注 異常仕損費・異常減損費の会計処理

1. 「異常」の種類

質的異常… 発生原因そのものが異常 (天災や整備不良による機械の故障など。)

量的異常… 発生原因は正常だが、発生量が異常 (通常の発生量を超えている)

2. 異常発生額の処理

(1) 非原価として処理

(2) 管理可能要因にもとづくもの → 営業外費用

管理不能要因にもとづくもの → 特別損失

管理可能要因… 工員の不慣れ、過失、監督の怠慢、材料の不良、整備不良による機械の故障など

管理不能要因… 地震、台風などの天災

第158回原 第2問

問1 異常仕損と異常仕損費に関する次の①～④の文章のうち、正しいと思われる番号をすべて選びなさい。

- ① 仕損が通常の程度をこえて発生することがあるが、その原因には、短期的に経営者にとって管理可能な原因も含まれ、材料の不良や整備不良による機械の故障が挙げられる。
- ② 異常仕損の原因は、経営者にとって管理不能な地震や台風などの天災に限られる。
- ③ 異常仕損費は、良品の原価に含めてはならず、良品の原価と区別して計算しなければならない。
- ④ 異常仕損費は、その発生原因にかかわらず特別損失の部に計上すべきである。

解答: ①、③

第164回原 第2問

問2 当月の異常仕損品は機械の整備不良による故障が原因だとすると、異常仕損費はどのように会計処理すべきか。①から④の選択肢から最も適切な番号を1つ選び、それを選んだ理由を40文字以内で述べなさい。

- ① 正常仕損費と同様に当月の製品原価とする
- ② 一般管理費とする
- ③ 営業外費用とする
- ④ 特別損失とする

解答: ③ 「機械の整備不良による故障は偶発的な事故ではなく、営業活動とは無関係の原因のため。」

2. 形態別分類（製品を作るうえで、何を使ったか）

材 料 費… 製品を作るために物品を消費して（モノを使って）発生した原価

労 務 費… 製品を作るために労働力を消費して（人を使って）発生した原価

経 費… 製品を作るためにモノ・人以外を消費して発生した原価

3. 製品との関連による分類（どれにいくら使ったか）

製造直接費… 特定の製品を作るためにいくら掛かった、と分かる原価（“どれ”に“いくら”）

製造間接費… 以下の理由から、特定の製品に限定出来ない（または、あえてしない）原価

① 各製品に共通に掛かった原価

② 特定の製品に掛かっているが、金額を個別に集計する効果が薄い原価

4. 製造原価と総原価（製造原価、販売費、一般管理費の区別の仕方）

製造原価… 製品を製造して掛かった原価、または、**工場**（製品の製造担当）で掛かった原価

総原価 { **販 売 費**… 製品を販売して掛かった原価、または、**営業所**（製品の販売担当）で掛かった原価

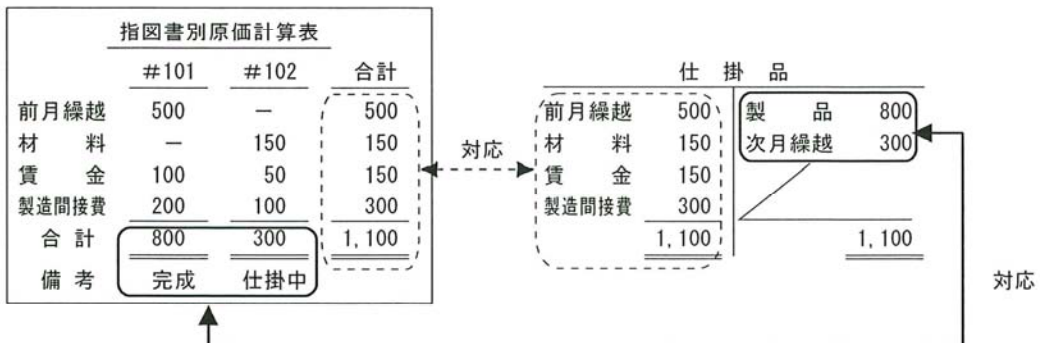
一般管理費… 会社の**維持管理**に掛かった原価、または、**本社**（会社全体の管理担当）で掛かった原価

5. 原価差異について

不利差異（借方差異）… 費用の計上モレ＝費用の追加計上（≒費用）

有利差異（貸方差異）… 費用の過大計上＝費用の取り消し（≒収益）

6. 原価計算表と仕掛品a/cの対応関係

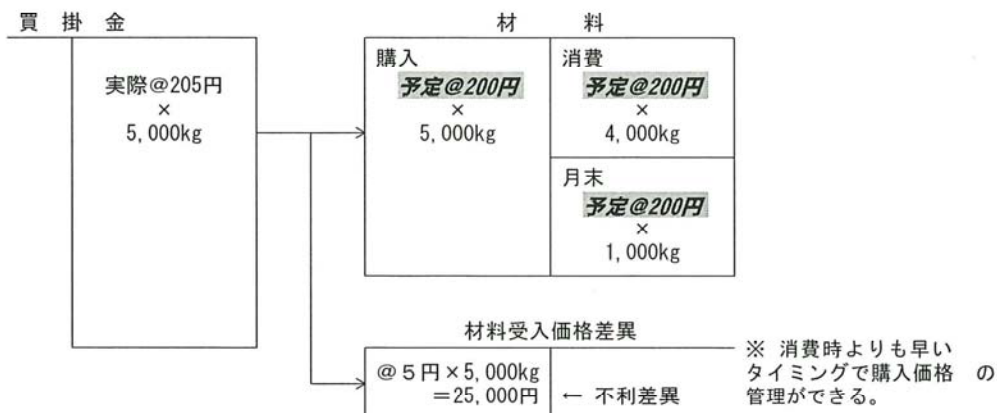


◎ 予定価格による材料の購入原価の計算 (p44)

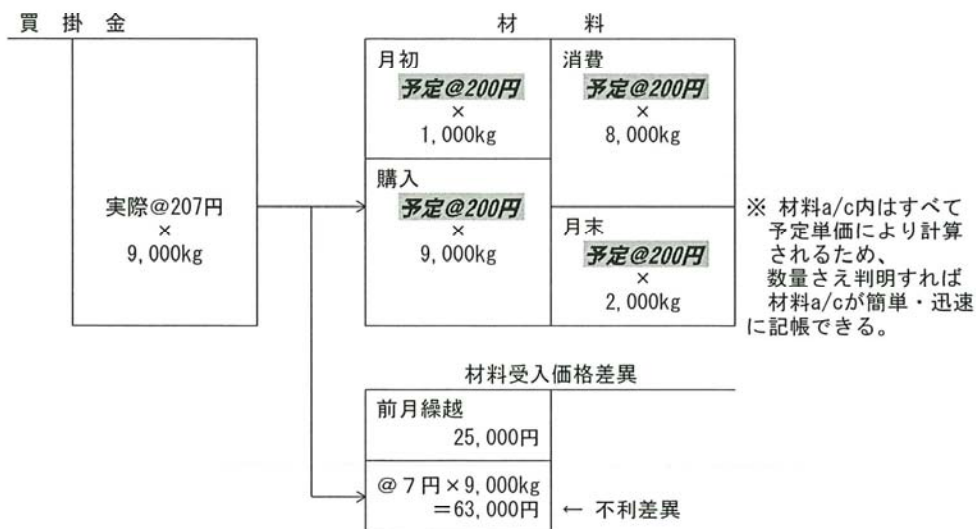
→ 購入代価 + 材料副費

・ 設例4-3の前月…

当月より製造開始、材料5,000kgを購入し4,000kgを消費した(予定価格は@200円、実際購入価格は@205円)。



・ 設例4-3 (当月) … (予定価格は@200円、実際購入価格は@207円、当月購入数量は9,000kg)



p 44 設例 4-3 (一部修正) 重要度★★★ (単位:円)

材			料		
前 月 繰 越	(	)	仕 掛 品	(	)
買 掛 金	(	)	次 月 繰 越	(	)
	(	)		(	)
材料受入価格差異					
前 月 繰 越		25,000			
買 掛 金	(	)			

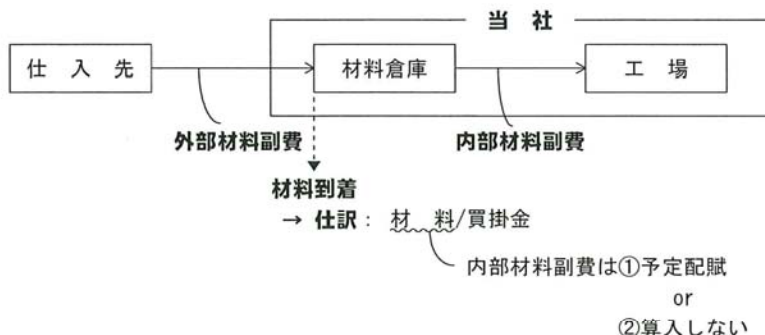
材料購入原価の計算と処理 (p32~)

原則：購入原価＝購入代価(送状価額)＋外部材料副費＋内部材料副費

例外：購入原価＝購入代価(送状価額)＋外部材料副費 (内部材料副費は算入しません)

※ 外部材料副費… 企業外部で発生する付随費用 例) 買入手数料、引取運賃、荷役費、保険料、関税等

内部材料副費… 企業内部で発生する付随費用 例) 購入事務費、検収費、整理費、手入費、保管費等



☆ 材料の返品と返還



1. 材料の返品

返品単価は、「通常の出庫と同様」と考えるのが一般的です。

例) 6/1 入 庫 100個 @120円
 2 入 庫 100個 @110円
 3 返品 (2日入庫分) 50個 (払出単価の計算方法は先入先出法による)

〈3日の返品に関する仕訳〉

買掛金 5,500 / 材料 6,000

製造間接費 500 棚卸差額修正

①110円 (2日分) ②120円 (先入先出法)

材料BOXの計算を「先入先出法」で行っているのに、返品の処理だけ「個別法」に変えるのは不合理ではないですか？

2. 材料の返還 (戻し入れ)

返還単価は、「出庫の取り消し」と考えるのが一般的です。

上記の例において、6/5に材料150個を出庫したが、6/6に製造現場から材料が20個戻ったものとします。



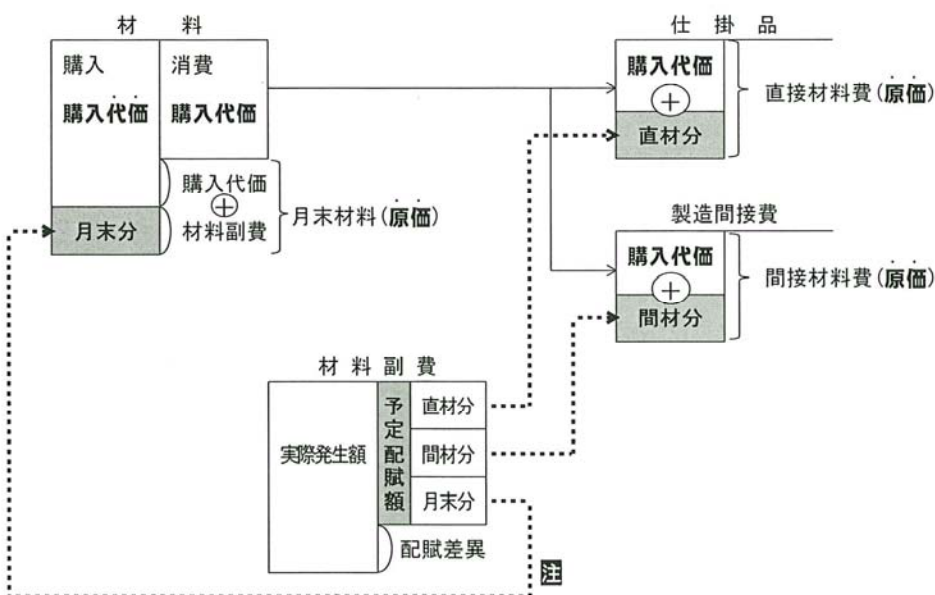
(最初から130個しか出庫していなければ出庫額はいくらか、と考えます)

p 40 **研究** 購入原価に算入しない材料副費の処理

(1) 出庫材料に配賦する方法(材料副費の出庫時予定配賦)

ポイント:

1. 外部材料副費と内部材料副費のすべてを、出庫材料に配賦。
2. 「出庫材料に対する予定配賦率」と「期末材料に対する予定配賦率」を分けて設定。



注 月末材料に対する配賦額は、上記のように材料a/cへ振り替える処理の他、(内部)材料副費a/c内で次月に繰り越す処理もあります(T R 4-4参照)。

(2) 製造間接費(間接経費)として処理する方法



〔問1〕

(単位：円)

材 料	
買掛金 ()	仕掛品 ()
[] ()	製造間接費 ()
	次月繰越 ()
()	()

仕 掛 品	
材 料 ()	
[] ()	

材 料 副 費	
諸 口 ()	仕掛品 ()
	製造間接費 ()
	[] ()
	[] ()
()	()

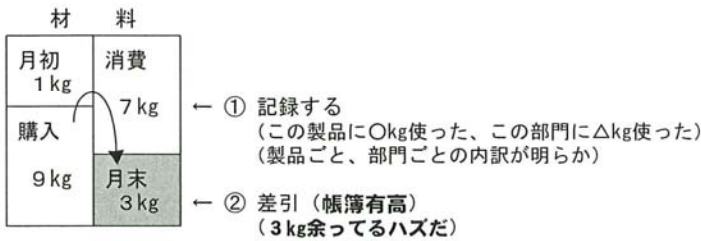
製 造 間 接 費	
材 料 ()	
[] ()	

材料消費額の計算と処理

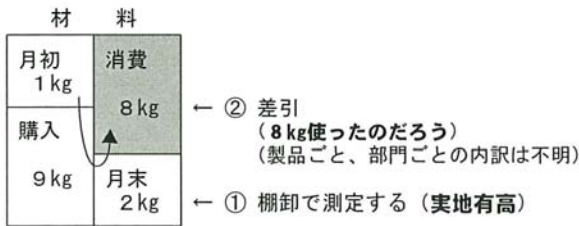
(p 46～)

1. 実際消費量の把握方法

(1) 継続記録法 (基準の原則)



(2) 棚卸計算法 (基準の容認)



	継続記録法	棚卸計算法
利点	① 正確な実際消費量が把握できる ② 棚卸減耗が把握できる ③ 製品の種類別、原価部門別の実際消費量が把握できる	計算や記帳に手数を要しない
欠点	計算や記帳に手数を要する	継続記録法の①～③が得られない

第164回工 第1問

「ある材料の実際消費量を（ ）法で把握してもその材料が特定製品にしか使われていないことがわかっているのであれば、その製品に賦課する原価を計算できる。」

解答：棚卸計算（法）

【過去の出題 ～ 材料費会計編 ～】

第138回工業簿記

1. 製品Xを8kg製造するのに必要な各原料の標準消費量と標準単価は次のとおりである。

	標準消費量	標準単価
原料A	8 kg	120円/kg
原料B	2 kg	100円/kg

2. 各原料の月初在庫量、当月購入量、当月消費量と月末在庫量は次のとおりであった。

	月初在庫量	当月購入量	当月消費量	月末在庫量
原料A	1,400kg	34,100kg	33,900kg	1,600kg
原料B	500kg	7,800kg	8,100kg	200kg

なお原料は標準単価で受入記帳を行っている。

3. 原料の購入原価は、購入代価に引取費用を加えて計算している。当月実績は次のとおりであった。

- ① 送状価額 原料A 3,348,000円 原料B 650,000円
 ② 引取運賃 544,700円

なお、引取運賃は購入量にもとづいて各原料に実際配賦している。

- ③ その他の引取費用は、原料Aについては購入代価の10%、原料Bについては購入代価の2%である。

問 購入原料価格差異（受入価格差異）を求めましょう！

原料A _____ 円 （ 借方 ・ 貸方 ） 差異

原料B _____ 円 （ 借方 ・ 貸方 ） 差異

（注）（ ）内は「借方」か「貸方」のいずれかを○で囲みましょう。

第138回 解答

原料A 34,100 円 (借方) ・ 貸方) 差異

原料B 15,600 円 (借方 ・ 貸方) 差異

解説

1. 各原料の実際購入原価の計算

(1) 引取運賃の実際配賦額

$$\frac{544,700\text{円}}{\text{原料A : } 34,100\text{kg} + \text{原料B : } 7,800\text{kg}} \times \begin{cases} \text{原料A : } 34,100\text{kg} = 443,300\text{円} \\ \text{原料B : } 7,800\text{kg} = 101,400\text{円} \end{cases}$$

(2) その他の引取費用の配賦額

$$\text{原料A : } 3,348,000\text{円} \times 10\% = 334,800\text{円}$$

$$\text{原料B : } 650,000\text{円} \times 2\% = 13,000\text{円}$$

(3) 各原料の実際購入原価

$$\text{原料A : } \underbrace{3,348,000\text{円}}_{\text{送状価額}} + \underbrace{443,300\text{円}}_{\text{引取運賃}} + \underbrace{334,800\text{円}}_{\text{その他の引取費用}} = 4,126,100\text{円}$$

$$\text{原料B : } 650,000\text{円} + 101,400\text{円} + 13,000\text{円} = 764,400\text{円}$$

2. 購入原料価格差異の計算

$$\text{原料A : } 120\text{円/kg} \times 34,100\text{kg} - 4,126,100\text{円} = (-) 34,100\text{円 (不利)}$$

$$\text{原料B : } 100\text{円/kg} \times 7,800\text{kg} - 764,400\text{円} = (+) 15,600\text{円 (有利)}$$

$$\text{購入原料価格差異合計} \quad \underline{\underline{(-) 18,500\text{円 (不利)}}$$

第140回工業簿記（本社工場会計） 問題

HIT製作所では外部から仕入れた材料を用いて製造した完成品を外部に販売しているが、工場を独立した単位として会計処理している。すなわち、工場では、材料を加工して製品を製造しており、（中略）実際総合原価計算の手続きを期中に継続して実施する（中略）。材料はすべて直接材料であり、予定消費価格を用いて直接材料費を計算している。（以下略）

【資料Ⅰ】 決算整理前の残高試算表（単位：千円）

借 方	本 社	工 場	貸 方	本 社	工 場
材 料		800			

【資料Ⅱ】 決算整理事項

（１）期末の棚卸資産

材料の帳簿棚卸高：62kg 材料の実地棚卸高：61kg 材料の帳簿価格：10千円/kg

問１ 材料の消費価格差異を推定しなさい。ただし、〔資料Ⅰ〕の材料勘定の記入を要約すると以下のとおりであった。

	材 料	（単位：千円）
期首繰越高	500	消 費 高 9,700
仕 入 高	10,000	

問 1

_____ 千円 （ 借 方 ・ 貸 方 ） 差異

（注）（ ）内は「借方」か「貸方」のいずれかを○で囲みなさい。

第140回 解答

問 1

180 千円 (借方) ・ 貸方) 差異

(注) () 内は「借方」か「貸方」のいずれかを○で囲みなさい。

第140回 解説

材料に関する期中処理をまとめると、次のようになる。問題文より、材料はすべて直接材料であるため、消費額はすべて仕掛品勘定に振り替えられる。

仕入時：(材 料) × × (買掛金など) × ×
消費時：(仕 掛 品) × × (材 料) × ×

上記の仕訳を材料勘定に転記した結果、問 1 に与えられた材料勘定になる。なお、予定消費価格を用いて直接材料費を計算しているとの指示があるため、消費高は予定消費額を表す。

材 料	
期首繰越高 500千円	消 費 高 ⑨9,700千円
仕 入 高 10,000千円	(直接材料費)
工場側の決算整理前残高試算表 「材料」800千円	

⇒ 仕掛品勘定へ

材料消費額を予定消費額を用いて記帳しているため、上記の残高は期末材料残高を表していないことに注意する。

そこで、上記の勘定に期末材料残高を当てはめると、材料消費価格差異を貸借差額で求めることができる。期末材料残高は資料Ⅱ (1) より計算可能である。

材 料	
期首繰越高 500千円	消 費 高 ⑨9,700千円
仕 入 高 10,000千円	材料消費価格差異 180千円 (貸借差額)
	棚卸減耗費 ⑩ 10千円
	実地棚卸高 ⑩ 610千円

← ⑩10千円/kg × (帳簿62kg - 実地61kg)

← ⑩10千円/kg × 実地61kg

帳簿棚卸高：⑩10千円/kg × 帳簿62kg

第150回工業簿記 問題

- ① 原料Xの受払記録(単価@は、前月繰越分は1kg当たりの購入原価、当月仕入分は1kg当たりの購入代価)

12月1日	前月繰越	100kg @500円	12月3日	製品A向け出庫	5,000kg
3日	掛仕入	15,000kg @480円	6日	製品B向け出庫	10,000kg
7日	掛仕入	6,000kg @500円	11日	製品A向け出庫	5,000kg
13日	掛仕入	6,000kg @500円	14日	製品A向け出庫	5,000kg
18日	掛仕入	15,000kg @490円	19日	製品B向け出庫	10,000kg
			21日	製品A向け出庫	7,000kg

(注) 原料の払出単価の計算は先入先出法による。

- ② 原料Xの購入原価は、購入のつど、購入代価に引取費用を加えて計算している。引取費用は、10,000kgまでは54,000円、10,000kgを超えると120,000円である。

問1 当月における原料の仕入高はいくらでしょう。

 円

問2 当月における原料の実際消費高を答えましょう。あわせて製品別の消費高も答えましょう。

 円

製品A 円

製品B 円

第150回工業簿記 解答

問 1

20,898,000 円

問 2

20,898,200 円

製品 A

11,015,100 円

製品 B

9,883,100 円

解説

原 料 X		
月初 100kg (@500円) 50,000円	12/3 消費 100kg (@500円) 50,000円	製品 A
12/3 仕入 15,000kg (購入代価@480円) 7,200,000円	" 4,900kg (@488円) 2,391,200円	
+引取費用 120,000円 7,320,000円 (購入原価@488円)	12/6 消費 10,000kg (@488円) 4,880,000円	製品 B
	12/11 消費 100kg (@488円) 48,800円	製品 A
12/7 仕入 6,000kg (購入代価@500円) 3,000,000円	" 4,900kg (@509円) 2,494,100円	
+引取費用 54,000円 3,054,000円 (購入原価@509円)	12/14 消費 1,100kg (@509円) 559,900円	製品 A
12/13 仕入 6,000kg (購入代価@500円) 3,000,000円	" 3,900kg (@509円) 1,985,100円	製品 B
+引取費用 54,000円 3,054,000円 (購入原価@509円)	12/19 消費 2,100kg (@509円) 1,068,900円	
12/18 仕入 15,000kg (購入代価@490円) 7,350,000円	" 7,900kg (@498円) 3,934,200円	製品 A
+引取費用 120,000円 7,470,000円 (購入原価@498円)	12/21 消費 7,000kg (@498円) 3,486,000円	
	月末100kg (@498円) 49,800円	

材料仕入高：7,320,000円+3,054,000円+3,054,000円+7,470,000円=20,898,000円

実際消費高：月初50,000円+仕入20,898,000円-月末49,800円=20,898,200円

（うち製品 A 分：2,441,200円+2,542,900円+2,545,000円+3,486,000円=11,015,100円
製品 B 分：4,880,000円+5,003,100円=9,883,100円）

第153回工業簿記

当社では部品Aを購入し、それを加工して製品Xを生産・販売している。

(1) 買入部品Aに関する記録

11月1日	繰越	1,500個	(3,000,000円)
5日	掛仕入	2,500個	購入代価@1,800円
6日	出庫	2,300個	
12日	掛仕入	2,200個	購入代価@2,000円
13日	出庫	2,500個	
19日	掛仕入	2,500個	購入代価@1,800円
20日	出庫	2,500個	
26日	掛仕入	2,000個	購入代価@2,200円
27日	出庫	2,000個	

① 購入原価は、部品購入のつど購入代価に、内部材料副費予定配賦額（購入代価の10%）と引取費用とを加えて計算している。配賦差異はゼロであった。なお、引取費用は2,499個までは22,000円、2,500個以上は50,000円かかり、小切手を振り出して支払った。

② 買入部品Aの消費価格の算定は先入先出法による。

問 以上の資料から、買入部品Aの当月実際消費高を求めましょう。

円

第153回 解答

19,320,600 円

解説

買入部品 A

月初	1,500個	出庫計
	3,000,000円	9,300個
11/5 仕入	2,500個	
(購入代価@1,800円)		
	4,500,000円	
+内部副費	450,000円	
+引取費用	50,000円	
	5,000,000円	
(購入原価@2,000円)		
11/12 仕入	2,200個	
(購入代価@2,000円)		
	4,400,000円	
+内部副費	440,000円	
+引取費用	22,000円	
	4,862,000円	
(購入原価@2,210円)		
11/19 仕入	2,500個	
(購入代価@1,800円)		
	4,500,000円	
+内部副費	450,000円	
+引取費用	50,000円	
	5,000,000円	
(購入原価@2,000円)		
11/26 仕入	2,000個	
(購入代価@2,200円)		
	4,400,000円	
+内部副費	440,000円	
+引取費用	22,000円	
	4,862,000円	
(購入原価@2,431円)		

差引 月末 1,400個

(@2,431円) 3,403,400円 ← 先入先出法につき、月末在庫は11/26分

借方計 10,700個

(注) 買入部品 A はすべて同一製品の生産に使用されているため、消費高はまとめて把握すればよいです。

(日付別に把握する必要はありません)

以上より、当月実際消費高は

$$\begin{array}{ccc} 3,000,000\text{円} + & (5,000,000\text{円} + 4,862,000\text{円} + 5,000,000\text{円} + 4,862,000\text{円}) & - 3,403,400\text{円} = 19,320,600\text{円} \\ \text{月初} & \text{当月仕入} & \text{月末} \end{array}$$

まとめ

複数製品 ———— 実際消費額 ———— 製品別に実際消費額を計算する必要あり

——— 予定消費額

単一製品 ———— 材料の月末在庫高を求め、材料a/cの貸借差額で実際消費額をまとめて計算

第156回工業簿記 第2問

HIT製作所では、A材料とB材料を用いて、X製品とY製品を製造販売している。材料の種類ごとに、1原価計算期間における実際消費量に予定消費価格を乗じて材料費を計算している。なお、材料元帳においては、月次総平均法にもとづいて実際消費価格を計算し、外部副費の予定配賦率を用いた材料の実際消費額を計算している。ただし、当製作所では、勘定外で材料別に外部副費のみを購入代価に加えた実際購入原価を計算し、材料副費配賦差異を分析している。内部副費に関しては、その実際発生額を間接経費として処理している。当月における次の〔資料〕にもとづいて、下記の問に答えなさい。

〔資料〕

1. 予定消費価格

A 材料 11,200円/個

B 材料 21,500円/個

2. 外部副費の予定配賦率

A 材料 購入代価の10%

B 材料 購入代価の8%

3. 実際購入代価（括弧内は購入量）

A材料送状価額 8,000,000円（800個）

B材料送状価額 10,000,000円（500個）

4. A材料とB材料に共通して発生した実際材料副費

引取運賃 1,040,000円（購入量の比でそれぞれの材料に按分する）

関 税 270,000円（購入代価の比でそれぞれの材料に按分する）

5. 4. 以外の材料副費実際発生額

	検 収 費	保 険 料	手 入 費	保 管 費
A 材 料	42,000円	82,000円	60,000円	140,000円
B 材 料	45,000円	186,000円	60,000円	160,000円

6. 製品別材料実際出庫量

	A 材 料	B 材 料
X 製 品	300個	450個
Y 製 品	400個	100個

7. 月初材料棚卸高（括弧内は在庫量）

A 材料 2,156,000円（200個）

B 材料 2,160,000円（100個）

問1 実際購入原価を材料別に計算しなさい。

問2 A材料の材料副費配賦差異を計算しなさい。

問3 X製品の直接材料費を計算しなさい。

問4 消費価格差異総額（A材料とB材料の差異合計）を計算しなさい。

問1 A 材料 _____ 円

B 材料 _____ 円

問2 _____ 円 （ 不利 ・ 有利 ） 差異

（注）（ ）内は「不利」か「有利」のいずれかを○で囲みなさい（問4も同様）。

問3 _____ 円

問4 _____ 円 （ 不利 ・ 有利 ） 差異

第156回工業簿記 第2問 解答

問1 A材料 8,800,000 円

B材料 10,800,000 円

問2 42,000 円 (不利 ・ 有利) 差異

(注) () 内は「不利」か「有利」のいずれかを○で囲みなさい(問4も同様)。

問3 13,035,000 円

問4 115,800 円 (不利 ・ 有利) 差異

第156回工業簿記 第2問 解説

問1 材料の実際購入原価

A材料：8,000,000円 + $\frac{800,000\text{円}}{8,000,000\text{円} \times 10\%} < \text{外部副費予定配賦額} > = 8,800,000\text{円}$

B材料：10,000,000円 + $\frac{800,000\text{円}}{10,000,000\text{円} \times 8\%} < \text{外部副費予定配賦額} > = 10,800,000\text{円}$

問2 A材料の材料副費配賦差異

1. 外部副費の実際発生額

引取運賃の配賦額： $\frac{1,040,000\text{円}}{800\text{個} + 500\text{個}} \times \begin{cases} 800\text{個} = 640,000\text{円} \text{ (A材料分)} \\ 500\text{個} = 400,000\text{円} \text{ (B材料分)} \end{cases}$

関税の配賦額： $\frac{270,000\text{円}}{8,000,000\text{円} + 10,000,000\text{円}} \times \begin{cases} 8,000,000\text{円} = 120,000\text{円} \text{ (A材料分)} \\ 10,000,000\text{円} = 150,000\text{円} \text{ (B材料分)} \end{cases}$

∴ 外部副費の実際発生額

A材料分：640,000円 + 120,000円 + 82,000円 < 保険料 > = 842,000円

(B材料分：400,000円 + 150,000円 + 186,000円 < 保険料 > = 736,000円)

2. 材料副費配賦差異

A材料：予定配賦額800,000円 - 実際発生額842,000円 = (-) 42,000円 [不利差異]

(B材料：予定配賦額800,000円 - 実際発生額736,000円 = (+) 64,000円 [有利差異])

問3 X製品の直接材料費

A材料予定消費価格11,200円/個 × 300個 + B材料予定消費価格21,500円/個 × 450個 = 13,035,000円

なお、Y製品の直接材料費は下記のとおりです。

A材料予定消費価格11,200円/個 × 400個 + B材料予定消費価格21,500円/個 × 100個 = 6,630,000円

問4 消費価格差異総額

1. 予定消費額

A材料：11,200円/個 × (300個 + 400個) = 7,840,000円

B材料：21,500円/個 × (450個 + 100個) = 11,825,000円

2. 実際消費額

A 材料			
月初	200個	消費	700個
	2,156,000円		7,669,200円
購入	800個		
代価	8,000,000円	月末	
外部	800,000円		

実際消費額の計算： $\frac{2,156,000\text{円} + 8,800,000\text{円}}{200\text{個} + 800\text{個}} \times 700\text{個} = 7,669,200\text{円}$

B 材料			
月初	100個	消費	550個
	2,160,000円		11,880,000円
購入	500個		
代価	10,000,000円	月末	
外部	800,000円		

実際消費額の計算： $\frac{2,160,000\text{円} + 10,800,000\text{円}}{100\text{個} + 500\text{個}} \times 550\text{個} = 11,880,000\text{円}$

3. 消費価格差異

A材料：予定消費額7,840,000円 - 実際消費額7,669,200円 = (+) 170,800円 [有利差異]

B材料：予定消費額11,825,000円 - 実際消費額11,880,000円 = (-) 55,000円 [不利差異]

(+) 115,800円 [有利差異]

第156回工業簿記 第1問

材料費計算に関する次の文章を読んで、下記の問に答えなさい。

『原価計算基準』によれば、材料費は、原価計算期間における実際の消費量に、その消費価格を乗じて計算するのであるが、消費量は ① によって、消費価格は購入原価をもって計算するのが原則である。また、材料の購入原価は、原則として ② の購入原価とし、購入代価に材料副費を加算した金額によって計算することになる。材料副費には、買入手数料、引取運賃、 ③ など材料買入に要した引取費用と、購入事務、検収、整理、 ④ などに要した費用がある。しかしながら、すべての材料副費を材料の購入代価に加算することが実務的に困難であるという理由から、『原価計算基準』では、いくつかの方法を示している。

a

引取費用のみを購入代価に加算して購入原価を計算し、その他の材料副費を間接経費として処理する方法が実務的に採用されているといわれていた。現在では、 ⑤ 原価計算を利用することにより、製品へ直接に配賦することができるようになってきた。

問1 文中の①～⑤に入る適切な語句を答案用紙の語群の中から1つ選択し○で囲みなさい。

問2 下線部aに関連して、次の①～③のうち『原価計算基準』に照らして妥当と判断される方法をすべて選びなさい。

- ① すべての材料副費を購入代価に加算せず、購入代価のみで購入原価を計算する。
- ② 引取費用については予定配賦額によって購入代価に加算するが、検収費、整理費、選別費については、それぞれに適切な予定配賦率によって計算した材料副費として購入代価に加算する。
- ③ 引取費用は購入代価に加算するが、手入費、保管費は購入原価に算入しないで、材料費に配賦する。

問1

①	継続記録法	先入先出法	平均法	棚卸計算法
②	予定	標準	実際	正常
③	保険料	選別費	出荷運送費	手入費
④	関税	販売事務	広告宣伝	保管
⑤	直接	標準	個別	活動基準

問2

第156回工業簿記 第1問 解答

問1

①	継続記録法	先入先出法	平均法	棚卸計算法
②	予定	標準	実際	正常
③	保険料	選別費	出荷運送費	手入費
④	関税	販売事務	広告宣伝	保管
⑤	直接	標準	個別	活動基準

問2

②、③

解説のかわりに、『原価計算基準』を抜粋します。

11 材料費計算

(1) 直接材料費、補助材料費等であって、出入記録を行なう材料に関する原価は、各種の材料につき原価計算期間における実際の消費量に、その消費価格を乗じて計算する。

(2) 材料の実際の消費量は、原則として継続記録法によって計算する。ただし、材料であって、その消費量を継続記録法によって計算することが困難なもの又はその必要のないものについては、たな卸計算法を適用することができる。

(3) 材料の消費価格は、原則として購入原価をもって計算する。

同種材料の購入原価が異なる場合、その消費価格の計算は、次のような方法による。

- 1 先入先出法
- 2 移動平均法
- 3 総平均法
- 4 後入先出法
- 5 個別法

材料の消費価格は、必要ある場合には、予定価格等をもって計算することができる。

(4) 材料の購入原価は、原則として実際の購入原価とし、次のいずれかの金額によって計算する。

- 1 購入代価に買入手数料、引取運賃、荷役費、保険料、関税等材料買入に要した引取費用を加算した金額
- 2 購入代価に引取費用ならびに購入事務、検収、整理、選別、手入、保管等に要した費用（引取費用と合わせて以下これを「材料副費」という。）を加算した金額。ただし、必要ある場合には、引取費用以外の材料副費の一部を購入代価に加算しないことができる。

購入代価に加算する材料副費の一部又は全部は、これを予定配賦率によって計算することができる。予定配賦率は、一定期間の材料副費の予定総額を、その期間における材料の予定購入代価又は予定購入数量の総額をもって除して算定する。ただし、購入事務費、検収費、整理費、選別費、手入費、保管費等については、それぞれに適当な予定配賦率を設定することができる。

材料副費の一部を材料の購入原価に算入しない場合には、これを間接経費に属する項目とし又は材料費に配賦する。

購入した材料に対して値引又は割戻等を受けたときは、これを材料の購入原価から控除する。ただし、値引又は割戻等が材料消費後に判明した場合には、これを同種材料の購入原価から控除し、値引又は割戻等を受けた材料が判明しない場合には、これを当期の材料副費等から控除し、又はその他適当な方法によって処理することができる。

材料の購入原価は、必要ある場合には、予定価格等をもって計算することができる。

他工場からの振替製品の受入価格は、必要ある場合には、正常市価によることができる。

(5) 間接材料費であって、工場消耗品、消耗工具器具備品等、継続記録法又はたな卸計算法による出入記録を行わないものの原価は、原則として当該原価計算期間における買入額をもって計算する。

棚卸減耗の処理 (p55～)

1. 会計処理

	正常な減耗費	異常な減耗費
減耗発生時	棚卸減耗費 / 材 料	棚卸減耗費 / 材 料
原価算入時	製造間接費 / 棚卸減耗費	仕訳なし（非原価）
まとめ	製造間接費 / 材 料	棚卸減耗費 / 材 料

2. 棚卸減耗引当金 (p84)

材料の棚卸減耗費については、間接経費として製造原価に算入しなければなりません。

ただし、そのためには、毎月、棚卸を実施しなければならないため、大変な手数を要します。

そこで、あらかじめ期首において棚卸減耗費の年間発生額を見積もり、これを月割した額を月々の原価計算にて製造原価に算入する方法が認められています。

ただし、このとき計上する月々の棚卸減耗費はあくまで見積もりであり、実際に棚卸減耗が発生したわけではないため、材料勘定を減額することはできません。そこで、材料勘定の代わりに棚卸減耗引当金を使用します。その後、期末において実地棚卸をした際、棚卸減耗引当金を取り崩すとともに、材料勘定の減額を行います。

なお、取り崩した棚卸減耗引当金（棚卸減耗費の予定発生額）と、実地棚卸により把握した棚卸減耗費の実際発生額との差は、原価差異として処理します。

〔例〕 棚卸減耗費の年間見積額：24千円（月次見積額 2千円）

期末時実地棚卸により把握された実際発生額：30千円



※1 棚卸減耗費の年間見積額

※2 棚卸減耗費の実際発生額

※3 棚卸減耗費の年間見積額24千円－実際発生額30千円＝(-)6千円（不利差異・借方差異）

☆ 解いておくべき問題 ☆

1. 合格トレーニングⅠ Ver. 8.0

出題論点	問題No.	標準解答時間	重要度	難易度	本試験類題
原価の構成	1-1	5分	C	C	
原価の基礎的分類	1-2	5分	B	B	
	1-3	5分	B	C	
	1-4	7分	B	B	
財務諸表の作成	2-1	20分	C	C	
	2-2	15分	C	C	
	2-3	20分	C	C	
原価計算表と 仕掛品勘定等の記入	3-1	15分	B	C	
	3-2	20分	B	C	
材料副費の実際配賦	4-1	5分	C	C	
材料副費の予定配賦	4-2	10分	C	C	
	4-3	5分	B	C	
材料副費の在庫時予定配賦 他	4-4	10分	C	B	
材料受入価格差異の把握	4-5	5分	B	B	
	4-6	5分	B	B	
材料費の計算	4-7	7分	B	C	
	4-8	10分	B	B	
	4-9	10分	B	C	
	4-10	15分	A	B	150(工)一部
棚卸減耗費の計算と処理	4-11	4分	B	C	
	4-12	5分	B	C	
	4-13	5分	A	B	152(工)一部
	4-14	10分	A	B	

参考問題

新問

新問

新問

〔重要度〕A…超重要、B…重要、C…普通
注) “難易度” よりも “重要度” が優先です。

〔難易度〕A…標準、B…基本、C…2級レベル

※ まず太字の問題を解きましょう！

2. 解いておきたい過去問題

◇ 材料費会計

第156回工簿－第1問、第2問

第158回工簿－第2問

◎ 「守破離」について

守… 決められた型を守って繰り返し、徹底的に基本を習得する。



破… 「守」で身につけた基本をベースにしながらも、「自分なりの工夫」を加える。



離… 型や教えから離れ、全く新しいオリジナルを生み出す。

上級講義 第2回 予告

講義内容

労務費・経費・間接費

事前に解いて欲しい設例
テキストⅠ (Ver. 8.0)

p 77 設例5-5・問2のみ(労)、p 85 設例6-1(経)、
p 95 設例7-2(操業度)、p 102 設例7-3(公式法)、p 106 設例7-5(固定予算)

2024年6月目標
上級本科生申込者限定！

TAC 簿記検定講座

1級講義パック Webフォロー

NEW!

～ 1級合格本科生の講義を追加受講でさらに安心～

1級上級合格本科生をお申込みいただいた方限定で、初學者向けコース「1級合格本科生」の講義パックを追加受講できるフォロー制度です。

1級上級合格本科生は、「上級演習」などアウトプット中心のカリキュラムとなっているため、「受験経験はあるけど万が一上級講義についていけなかったらどうしよう」と不安を覚える方もいらっしゃるかと思います。

そんな方に、「1級上級講義」に加え、初めて1級を学習する方を対象に基本論点から丁寧にインプットしていく「1級合格本科生」の講義パックを追加受講できるフォローをご用意しました。



こんな不安を解決します！

- ・受験経験はあるけどアウトプット中心のカリキュラムについていけるか不安…
- ・苦手の論点もあるので、基本論点も復習しつつ進めたい



上級本科生申込者限定！ 1級講義パックWebフォローで解決！

通常¥117,000の1級講義パックを¥40,000で受講できる
1級上級合格本科生限定のお得な特典です！

●受講料 (教材費・10%税込) Webフォローのみ (クラスコード：W1)

コース名		コースNo.	通常受講料
【1級上級合格本科生限定】 1級講義パックWebフォロー (2024年6月目標)	商会・工原 (全69回)	241-44P	¥40,000
	商会のみ (全36回)	241-44J	¥25,000
	工原のみ (全33回)	241-44K	¥25,000

Web配信開始日：
2023年11月20日(月)～
配信終了日：
2024年7月31日(水)
教材発送日：
なし(Web講義の配信のみ)

※上記受講料には消費税10%が含まれます。

※当Webフォローは2024年6月合格目標の1級上級合格本科生をお申込みの方のみ申込みいただけます。

※当コースは株主優待券、法人割引のうちいずれか1つをご利用いただけます。

※当コースはWeb講義の配信のみとなります。他の学習メディアや教材の発送はございません。

※合格テキスト・トレーニングは上級本科生と同じものを使用し、ミニテスト・基礎演習は講義後に添付いたします。

お申込みはTACホームページ (e受付) またはTAC校舎窓口・郵送にて承ります。

※郵送をご希望の方は簿記検定講座パンフレットに入っている申込書をご利用ください。

有効期限：2024年7月31日(水)まで

お申込みは
【e受付】がオススメ！
TAC e受付 検索

e受付
TACお申込みサイト



1級上級合格本科生 学習進度表【1級上級講義】

《《 2024年6月合格目標 》》

※ 直近の試験傾向を踏まえ、上級講義の内容は予告なく変更させていただく場合があります。

1級 商業簿記・会計学Ⅰ (合格テキストVer.17.0)

標準学習進度	テーマ	主な学習論点
第1回	01 商業簿記・会計学総論	収益の認識基準
	02 商品売買の会計処理と原価率・利益率	
	03 棚卸資産	
	04 収益の認識基準 (「7 商品券」まで)	
第2回	04 収益の認識基準 (「8 カスタマー・ロイヤリティ・プログラム」から)	収益の認識基準 工事契約 割賦販売
	05 工事契約	
	06 割賦販売	
	07 委託販売	
	08 試用販売	
	09 未着品販売	

1級 商業簿記・会計学Ⅱ (合格テキストVer.17.0)

標準学習進度	テーマ	主な学習論点
第3回	01 税金・税効果会計	税効果会計
	02 現金預金	
	03 金銭債権・貸倒引当金 (「2 金銭債権」まで)	
第4回	03 金銭債権・貸倒引当金 (「3 貸倒引当金の設定」から)	貸倒引当金 有価証券 外貨建有価証券
	04 有価証券	
	05 外貨換算会計	
第5回	06 デリバティブ取引	為替予約 オプション取引
	07 有形固定資産 (「5 臨時損失と保険差益」まで)	
第6回	07 有形固定資産 (「6 圧縮記帳」から「8 資産除去債務」まで)	圧縮記帳 減損会計
	07 有形固定資産 (「研究」不動産の流動化(証券化)」から)	
第7回	08 リース取引	リース取引
	09 無形固定資産・投資その他の資産	
	10 繰延資産、研究開発費等	
	11 引当金	
第8回	12 退職給付会計	退職給付会計 新株予約権付社債
	13 社債	
	14 純資産(資本)	

1級 商業簿記・会計学Ⅲ (合格テキストVer.17.0)

標準学習進度	テーマ	主な学習論点
第9回	01 本支店会計	本支店会計 合併
	02 企業結合、合併	
第10回	03 連結会計(Ⅰ)	支配獲得日後の連結 追加取得 一部売却
	04 連結会計(Ⅱ)	
	05 連結会計(Ⅲ)	
第11回	06 連結会計(Ⅳ)	成果連結
第12回	07 連結会計(Ⅴ)	連結包括利益計算書(退職給付含む) 持分法
	08 連結会計(Ⅵ)	
第13回	09 株式交換・会社の分割など	株式交換・会社の分割
第14回	10 外貨建財務諸表項目	在外支店 キャッシュ・フロー計算書
	11 キャッシュ・フロー計算書	

※ 直近の試験傾向を踏まえ、上級講義の内容は予告なく変更させていただく場合があります。

1級 工業簿記・原価計算Ⅰ（合格テキストVer.8.0）

標準学習進度	テーマ	主な学習論点
第1回	01 総論	原価記録と財務諸表 材料費
	02 原価記録と財務諸表	
	03 個別原価計算	
	04 材料費会計	
第2回	05 労務費会計	労務費 経費 製造間接費
	06 経費会計	
	07 製造間接費会計	
第3回	08 原価の部門別計算（Ⅰ）	部門別計算
	09 原価の部門別計算（Ⅱ）	
第4回	09 原価の部門別計算（Ⅱ）	部門別計算 個別原価計算における仕損
	10 個別原価計算における仕損	

1級 工業簿記・原価計算Ⅱ（合格テキストVer.8.0）

標準学習進度	テーマ	主な学習論点
第5回	01 総合原価計算の基礎	仕損・減損が生じる場合の計算
	02 仕損・減損が生じる場合の計算	
第6回	03 工程別総合原価計算	総合原価計算の各種計算形態
	04 組別・等級別総合原価計算	
	05 連産品の原価計算	
第7回	07 標準原価計算における仕損・減損	標準原価計算における仕損・減損 配合差異・歩留差異の分析
第8回	06 標準原価計算の基礎	標準工程別原価計算 標準個別原価計算 原価差異の会計処理
	08 原価差異の会計処理	
	09 標準の改訂	
	10 本社工場会計	

1級 工業簿記・原価計算Ⅲ（合格テキストVer.8.0）

標準学習進度	テーマ	主な学習論点
第9回	01 経営管理のための会計情報	直接原価計算 直接標準原価計算
	02 直接原価計算	
	03 直接標準原価計算	
	04 企業予算の編成	
第10回	05 原価・営業量・利益関係の分析	CVP分析 最適セールス・ミックスの決定
	06 最適セールス・ミックスの決定	
第11回	07 事業部の業績測定	事業部の業績測定 予算実績差異分析
	08 予算実績差異分析	
第12回	09 差額原価収益分析	業務執行上の意思決定
	10 業務執行上の意思決定	
第13回	11 設備投資の意思決定	設備投資の意思決定
第14回	11 設備投資の意思決定	設備投資の意思決定 戦略的原価計算
	12 戦略の策定と遂行のための原価計算	

1級上級合格本科生 学習進度表【1級上級演習】 《《2024年6月合格目標》》

- 「1級上級合格本科生」「1級上級演習」をお申込みの方は、下記の上級演習もあわせてご受講ください。

1級上級 商会上級演習

回数	商業簿記	会計学
第1回	決算整理後残高試算表の作成	〔第1問〕理論問題 〔第2問〕会計上の変更 〔第3問〕売価還元法 〔第4問〕工事契約
第2回	損益計算書の作成	〔第1問〕理論問題 〔第2問〕税効果会計 〔第3問〕通貨オプション 〔第4問〕カスタマー・ロイヤルティー・プログラム
第3回	決算整理後残高試算表の作成	〔第1問〕理論問題 〔第2問〕資産除去債務 〔第3問〕総合償却 〔第4問〕減損会計
第4回	貸借対照表の作成	〔第1問〕理論問題 〔第2問〕合併 〔第3問〕退職給付会計 〔第4問〕純資産会計
第5回	本支店会計	〔第1問〕理論問題 〔第2問〕連結会計（一部売却） 〔第3問〕退職給付会計と連結会計 〔第4問〕持分法
第6回	連結財務諸表の作成（在外子会社含む）	〔第1問〕理論問題 〔第2問〕事業分離と連結会計 〔第3問〕キャッシュ・フロー計算書

1級上級 工原上級演習

回数	工業簿記	原価計算
第1回	費目別計算、個別原価計算における仕損	CVP分析
第2回	部門別計算	最適セールス・ミックスの決定
第3回	本社工場会計	予算実績差異分析
第4回	実際工程別総合原価計算	内製か購入かの意思決定
第5回	標準工程別総合原価計算	設備投資の意思決定
第6回	予算編成	活動基準原価計算・品質原価計算・原価企画

※ 直近の試験傾向を踏まえ、上級演習の内容は予告なく変更させていただく場合があります。



004-4182-1013-15

1級工原合格テキスト・合格トレーニング Ver. 8.0 正誤表

簿記検定正誤表

科目

1級 工業簿記・原価計算
合格テキスト・合格トレーニング Ver.8.0

1級工原トレーニングの訂正事項は次のとおりです。

ご迷惑をおかけして申し訳ございません。

恐れ入りますが、以下の正誤をご確認のうえ、ご利用いただきますよう、お願いいたします。

なお、増刷の場合は、すでに下記正誤が反映されている場合もございます。ご了承ください。

【合格トレーニングⅠ (Ver. 8.0)】

頁	訂正箇所	誤	正
17 ページ	問題5-6 (資料) 4	4. 直接工出勤票の要約(5/1より5/31まで) 定時間内作業 10/1より10/20まで 1,110時間 10/21より10/31まで 370時間 定時間外作業 10/29, 10/30 50時間 合 計 1,530時間	4. 直接工出勤票の要約(5/1より5/31まで) 定時間内作業 5/1より5/20まで 1,110時間 5/21より5/31まで 370時間 定時間外作業 5/29, 5/30 50時間 合 計 1,530時間

【合格トレーニングⅡ (Ver. 8.0)】

頁	訂正箇所	誤	正
<28> ページ	問題2-16 解答(2) 仕掛品勘定	解答(2) 仕掛品勘定の貸方の原価要素内訳 完成品総合原価 直接材料費 3,178,000 加 工 費 2,800,000 月末仕掛品原価 直接材料費 454,000 加 工 費 320,000	完成品総合原価 直接材料費 3,143,000 加 工 費 2,835,000 月末仕掛品原価 直接材料費 449,000 加 工 費 325,000
<29> ページ	問題2-16 解答への道	解答への道 4. まとめ(2)の各計算式を、以下のように修正してください。 月末仕掛品原価: 直接材料費; 440,000円 + 9,000円 = 449,000円 正常仕掛費 加 工 費; 320,000円 + 5,000円 = 325,000円 正常仕掛費 合 計; 449,000円 + 325,000円 = 774,000円 仕損品評価額: 160円/個 × 100個 = 16,000円 完成品総合原価: 直接材料費; 3,080,000円 + 63,000円 = 3,143,000円 正常仕掛費 加 工 費; 2,800,000円 + 35,000円 = 2,835,000円 正常仕掛費 合 計; 3,143,000円 + 2,835,000円 = 5,978,000円 完成品単位原価: 5,978,000円 ÷ 3,500個 = 1,708円/個	



004-4182-1013-15

1 級工原合格テキスト・合格トレーニング Ver. 8.0 正誤表

【 合格トレーニングⅢ (Ver. 8.0) 】

14
ページ

問題 3 - 1

(資料)1および2を、以下のように修正してください。

1. 製品 1 単位あたりの標準製造原価

直接材料費	20 円/kg	×	5 kg	=	100 円
直接労務費	30 円/時間	×	10 時間	=	300 円
製造間接費	50 円/時間	×	10 時間	=	500 円
製品単位あたりの全部製造原価					<u>900 円</u>

2. 予算データ (月間)

基準操業度	20,000 直接作業時間
固定製造間接費	600,000 円
変動販売費	60 円/個
固定販売費	100,000 円
一般管理費	200,000 円 (すべて固定費)

正誤表は、TAC WEB SCHOOLのマイページ上にて掲載しております。ご確認をお願いいたします。